

様式3

みやま幼稚園学校評価に係る
令和6年度努力目標自己評価報告書・園評価

努力目標	園評価	対応・改善策
(1) 資質の向上を目指す 社会人として、或いは教諭としてふさわしい言葉使い、服装や身だしなみを常に意識し笑顔を絶やすず明るい態度を心掛ける。挨拶・言葉づかい・行動は園児のお手本となるよう常に意識を高く持ち、出退勤時の身なり(服装・髪の色)も教育者としての自覚を常に意識し節度あるものとする。保育者として向上心を強く持ち、より良い保育を目指し、園児にとって有益な新しい情報・要素を取り入れるように努力する	昨年B 職員平均 A B	身嗜みはある程度行われていたと思うが常に社会人又は教諭としての自覚を持ち行動していく。挨拶や普段の言葉遣い、所作は見本となる姿を率先して示し子どもたちを導いていく。(挨拶は立ち止まり両足揃えて一礼)一斉活動やその他、保育中などの <u>支持行為</u> や何気ない会話にも、教諭として適切な言葉使いを心掛ける。また、子どもの気持ちに常に寄り添うことが出来るよう、体調や日々の精神的な面も観察を怠らない。教育者として子どもに対し知的好奇心を抱かせたり、意欲・やる気を起こさせる声掛けを工夫してほしい。
(2) 教育・保育の目的とねらい 教諭としての自覚を持ち客観的論理的に指示を出す。子どもの立場になって、分かりやすい指示ができるかを絶えずチェックする。声掛けの工夫も(一方的で指示が伝わらないことのないように)また、教育の目的とねらいを明確にし、計画的に進めカリキュラム・行事等の準備を余裕持って行う。子ども一人ひとりの個性・能力に合った対応が出来ているか。個人・クラス・学年・三年間を通して何時でも、何処でも、誰でも、一貫した(年間を通して繋がりのある)教育・保育が出来るように努力する。保育室の教育的環境を整える。	昨年C 職員平均 B B	子どもの個性や能力にあった事前導入(映像・資料・見本などの用意)がある程度できていた。一斉活動などで、今後も導入から最終的な仕上がりまでの時間配分を子供たちの能力に合わせ、事前にシミュレーションをしっかりと欲しい。教師の狙いが明確になっているか、その狙いを具現化するための方法・手段等を適切に指導できたかをもう一度検証して欲しい。今後も、年間を通して繋がりのある余裕を持った保育を心掛ける。
(3) 新しい気付きと向上心 業務や保育を常に振り返り、マンネリに陥らないようにする。日々の反省と <u>新たな気付きを保育に活かしているか</u> を検証し、常に向上心を持って職務にあたる。同じ失敗を繰り返さないよう常に意識を高く持ち保育を行う。	昨年B 職員平均 C C	保育日誌に記録した反省点は、確実に改善する。終礼などで上司や同僚教諭の意見を聞くなどして、一人で悩まないようする。新しい気付きが普段から保育につながるよう意識していく、不明なことは些細なことでも相談し、常に向上できるよう(保育・手遊び・ピアノや楽曲)心掛けよう。
(4) 保護者との連携 園児に関わる情報(アレルギー・投薬・性格・特長・癖・トラブルなど)は早期収集と日々の状態を常に観察し、異変があったときには速やかかつ適切な対応を行うとともに管理者にも報告をする。発熱時の園の決まりをしっかり理解し、どんな些細なことでも誤解を招かないよう保護者と密接に連絡をとる。できる限り、今日あった出来事やちょっとした変化、新しい発見など日々の姿を伝える努力をする。(保護者は園での様子を知りたいと常に思って	昨年B 職員平均 A A	今年度、園内の感染症は最小限に抑えられ、保育に影響が出るほどではなかった。次年度も、感染症やその他で、保育が止まらないよう家庭との連絡を密にし、園児のアレルギーや日常の体調変化にも気を付けるようにして欲しい。
(5) 職員相互の連携 職員全体が保育に関する情報を共有し、業務・教育の質の向上に努める。特に外部研修受講で得たものは園内研修で披露し、職員の保育技能向上に努める。また、ピアノ曲・手遊びなどのレパートリーを増やす努力をする。職務が一人に偏らないよう互いにサポートするよう心掛ける。	昨年C 職員平均 C C	外部研修受講内容報告で情報共有はある程度が出来たが、今後も保育技能のレベルを高めていくための連携と情報交換を積極的にして欲しい。長期休業中(春期・夏期・冬期)の時間を有効活用し、次の学期の準備を計画的に行い、余裕をもって保育をする。(残業にならないよう効率的に準備)
(6) 安全点検と防犯・防災の意識 園庭・遊具・園舎内、園児が関わる全てに於いて、常に危険がないか始業前点検の実施、特にアスレチック・滑り台・砂場などは充分に行う。防災・防犯の意識を常に持ち、避難訓練を参考に園児の安全第一を優先し行動する。直面は施錠と電気器具のスイッチの確認を徹底する。換気扇のOFFを忘れずに(ホール舞台裏・ホールトイレ)。	昨年C 職員平均 A A	毎日の始業前安全点検の実施で、子供の大きな怪我につながることなく終えることが出来ていたが、どうしても死角がでたり目の行き届かない状況が起きてしまう事がある。出来る限り怪我や灾害を起こさないよう死角がないよう職員間で意識し目を配る。また、防災訓練、不審者侵入訓練などしっかりと子どもを守る取り組みが出来ていた。子どもたちに危険な行為や怪我につながる行動などについては今後も詳しく説明していく。火災に関して保育室のコンセントなどの清掃をする。
(7) 環境・衛生 園舎・保育室が常に清潔で衛生上問題がないか日々チェックする。特に、職員室・保育室のトイレ・手洗い場の床やコーナーなど汚れの残りやすいところの清掃。職員・園児・保護者の方が園内全てに於いて気持ち良く安全に使用できる環境を維持する。また伝染性疾患(飛沫・空気感染など)の事後処理を適切に行えるよう事前に研修を受けるなど、適切な処理方法を熟知!二次感染を最小限に防ぐよう努める。	昨年B 職員平均 A A	日々使用する箇所の清掃はよく出来ていたが、各園児のロッカーや共有部分の整理整頓が不十分だった。換気は重要だが適切な開閉を心掛け欲しい。今後も常に清潔な環境維持に努力する。
(8) 省エネ意識 省エネ意識を常に持ち、子どもたちに教材・水道・電気について考えるきっかけとして資源やエネルギーの大切さに触れ、無駄な消費を抑える指導をする。空調や照明は気温や明るさを職員個々が実際に肌で感じスイッチをON/OFFするように。慣習でのスイッチONはやめれる。	昨年B 職員平均 A A	各保育室のエアコンの温度・照明などの管理を省エネの観点からも、もう少し厳密にしていく。電気や水だけではなく日用品や教材・紙・文房具類など、無駄な使い方をなくす省エネについて子どもたちに伝えていって欲しい。
(9) 情報の管理 担当する園児・保護者に関する情報は勿論のこと園内全ての個人情報は徹底的に管理し、外部漏洩は絶対しない(住所・園児写真など)。PCなどの電子情報個人のスマートフォン・USBなどに入れて園外へ持ち出さない。もし、第三者に情報を求められた場合は断る、または、管理職の指示を仰ぐ。個人のSNSも(ツイッター・フェイスブック・インスタグラムなど保護者が閲覧する可能性あり)十分な注意と管理を徹底する。自己判断ができない時	昨年A 職員平均 A A	今年度も十分に情報管理がなされていた。情報が漏洩したら取り返しのつかない事態になる危険性を十分理解して、安易な情報漏洩にならないよう、写真・個人情報など電子情報を園外に持ち出さない。USB・SDカード・などのメディアの管理やSNSなどには十分注意して欲しい。

評価	A : 十分に達成された	B : 概ね達成された
	C : 取り組みがやや不十分	D : 取り組みが大いに不十分